

高知県感染症発生動向調査（月報）

2020年12月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第49週(11月30日～)から第53週(～1月3日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国での12月の上位6疾患の合計は4週換算にすると16.89で11月の15.41と比べて横ばいであった。新型コロナウイルス感染症対策の活動自粛と衛生管理により4月・5月と感染症が顕著に減少し、6月-7月は自粛緩和で感染症が増加していたが、8月は再び減少に転じ、9月以降は4か月連続で横ばいの推移を示し、日常的な感染症は少ない状態が続いている。

上位6疾患は、4位と5位が入れ替わっただけで、いずれの疾患も先月と比べて小幅な動きだった。1位は感染性胃腸炎で4週間に換算すると10.19(11月1位8.36)と少し増加した。2位はA群溶血性レンサ球菌性咽頭炎で2.80(同2位2.80)と横ばいだった。3位は突発性発疹で1.34(同3位1.65)と減少した。4位は咽頭結膜熱で1.07(同5位0.88)と少し増加、5位は流行性角結膜炎で0.76(同4位0.89)、6位は水痘で0.72(同6位0.83)といずれも少し減少した。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

中国武漢で端を発したCOVID-19の流行が始まって1年を越えた。世界の患者数は図1左に示すように、1月5日には8,500万人を、死亡者は185万人を超え、感染拡大はさらに加速を増した。寒冷期を迎えた欧州で再び感染拡大し、11月に欧米諸国は2回目のロックダウン(都市封鎖)に踏み切るも、行動規制の措置は延期を余儀なくされている。患者数を国別にみると、1位米国、2位インド、3位ブラジル、4位ロシア、5位英国、6位フランス、7位トルコ、8位イタリア、9位スペイン、10位ドイツである。上位は、ブラジルを除きすべてが北半球の国々にかわった。

英国が急速な感染者増加に直面しているが、時期を同じくして新規変異株(Variant of Concern(VOC)-202012/01)が多くの患者から検出され、感染拡大との関連性が疑われている。ウイルスゲノム解析・疫学・モデリング解析では、この新規変異株はいままでの流行株よりも感染性が高い(再生産数(R)を0.4以上増加させ、伝播のしやすさ(transmissibility)を最大70%増加)ことが示唆されている。PCR法による核酸検査やウイルスゲノム解析から推定されるウイルス量は、いままでの流行株よりも増加していることが示唆されている。(以上は国立感染症研のHPによる<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10107-covid19-33.html>)。このウイルス株が世界に蔓延し事態を悪化させないかと危惧されている。日本でも既に英国等からの少数の入国者でこの株が検出されはじめており、動向に注意が必要である。このほかにも南アフリカ保健省が2020/12/18に公表した新規変異株(VOC 501Y.V2)も感染拡大に影響している可能性があり注目されている。さらには、1月6日にブラジルからの入国者4人に新たな変異株(B.1.1.248)が検出された。いずれの変異株も重症化の有無やワクチンの有効性については不明である。今後、多様な変異ウイルスが続々と見つかる可能性があるが、慎重にその意義を判断し、一方で、これら変異株の蔓延を防ぐ対応も必要である。

日本の患者数を図1右に示す。自粛を緩和した7月以降に患者数の増加は加速を増していた。11月以降に増加の勾配が急峻となり、患者数や入院重症者数も日ごとに記録を更新する事態となり、感染爆発overshootの危機が迫っている。これは低温乾燥といった気候変化の関与も疑われる。国内の死亡者は、1月5日時点で計3,655人となった。都市部を中心に重症者、死者の増加をみると、医療体制が逼迫している。1月7日に4都県で緊急事態宣言が発出され、他の自治体への措置拡大が予想される。

死亡率の高さは患者年齢に比例している。図2左に日本での年齢階層別の死亡率を示す。高齢ほど重症で致死率が高いことは明らかである。図2右に男女別の死亡率を示す。男性は女性に比べて死亡率が高く、落差が大きい。高齢者の感染者数増加は死亡率増大に直結するので、年代層別の患者比率を監視すべきである。図3に示すように、夏までは、20～30代の感染者が増加し、高齢者の感染は抑制されていた。しかし、11月以降は年代ごとの増加率に差がなくなり、その結果として高齢感染者の絶対数が増加している。なお、図に表示された厚労省HPの各数値は、個々の集計方法のちがいで数値に不一致があるので、あくまで参考として参照されたい。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	53週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.41	2.81	2.92	3.17	1.43	12.74
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.79	0.80	0.79	0.77	0.35	3.50
3	突 発 性 発 疹		0.38	0.39	0.38	0.35	0.18	1.68
4	咽 頭 結 膜 熱		0.27	0.30	0.31	0.31	0.15	1.34
5	流 行 性 角 結 膜 炎		0.24	0.24	0.19	0.19	0.09	0.95
6	水 痘		0.21	0.21	0.19	0.18	0.11	0.90

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の12月の上位6疾患の合計は4週間換算値が15.10で11月の17.14と比べて少し減少し全国よりも少なかった（表2）。手足口病とヘルパンギーナの遅い流行がみとめられたが、通年でみると流行規模は大きくない。

1位は感染性胃腸炎で4.22（11月2位4.92）と少し減少し全国よりも少なかった。2位は手足口病で3.78（同1位5.36）と少し減少したが全国よりも多かった。3位はヘルパンギーナで2.74（同4位2.24）と少し増加し、全国よりも多かった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.99（同3位2.36）と少し減少し全国よりも少なかった。5位は突発性発疹で1.31（同5位1.25）と横ばいで全国と同等であった。6位は流行性角結膜炎で1.06（同13位0.00）と増加し全国よりも多かった。

〈高知県におけるCOVID-19〉

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。2月29日～3月8日に12人が報告され、その後19日間は報告が途絶えた。3月27日から連日新規患者が報告され4月29日までに62人が加わった。4月16日から5月14日まで全国に緊急事態宣言が発せられた。高知県は5月14日以降に、学校、公共機関、飲食等の活動が再開され、以後は、他県と比べて人的往来に寛容な対応をとってきた。7月6人、8月45人、9月13人の患者発生があり、夏休みの人的往来を反映して患者が増加した。

10月6人、11月8人と少なかったが、12月に入って報告が急増し、計511人/月に昇った。12月だけで5つのクラスターが発生した。A病院では患者29人と職員11人、B病院では患者7人職員4人、C病院では患者6人職員3人が、D飲食店では12人の感染者、E高齢者施設では利用者7人職員1人の感染がそれぞれ報告された。図5に12月1日以降の日毎の公表感染者数と感染経路不明者数を示す。1月10日時点で感染者は732人、死亡は12人となった。

この事態を受けて12月2日に浜田知事は、県の対応を「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に、12月9日には「特別警戒（赤）」引き上げた。日ごとの感染者数、感染経路不明の患者数ともに少し落ち着きをうかがわせる状況は対策の効果だろうか。寒冷乾燥の季節は感染拡大の主因のひとつである。マスク、手洗い、三密の回避と基本に立ち返り、平年以上の厳冬ではあるが、部屋の換気も大切である。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	49週	50週	51週	52週	53週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.29	1.32	1.00	0.96	0.71	5.28
2	手 足 口 病		1.82	1.54	0.61	0.50	0.25	4.72
3	ヘルパンギーナ		0.57	0.71	1.07	0.64	0.43	3.42
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.75	0.71	0.57	0.21	0.25	2.49
5	突 発 性 発 疹		0.46	0.54	0.29	0.14	0.21	1.64
6	流 行 性 角 結 膜 炎		0.67	0.00	0.00	0.33	0.33	1.33

図1,2021年1月5日時点でのCOVID-19(厚生労働省HPから)

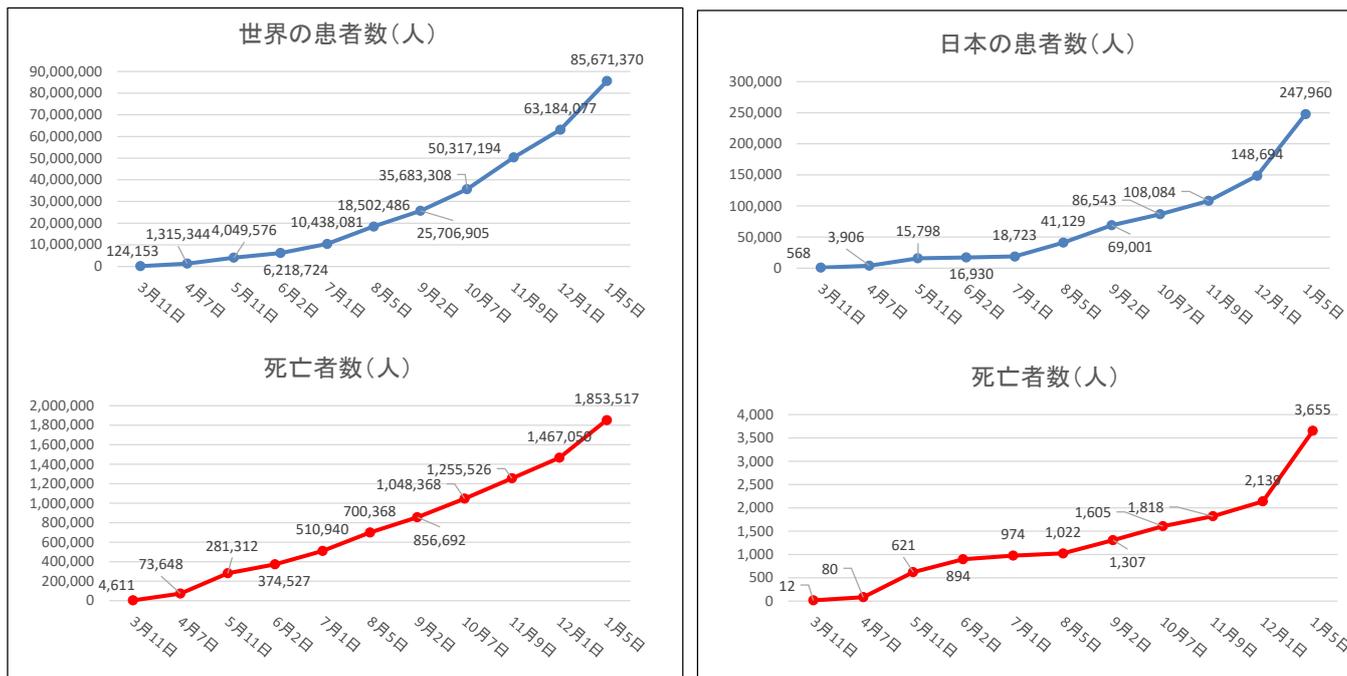


図2,年齢階層別の死亡率

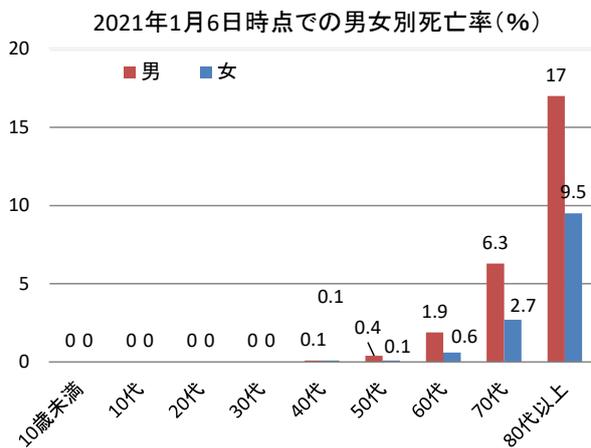
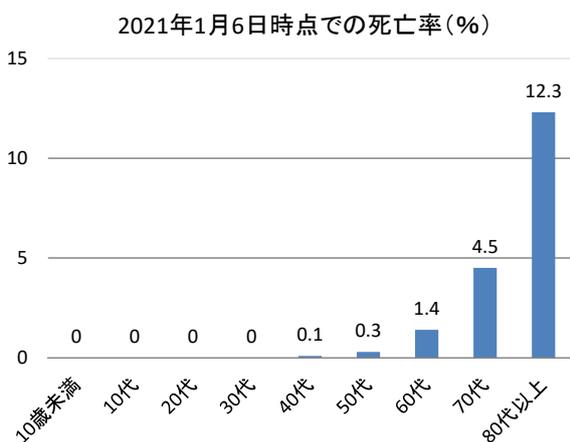


図3,経時的な年齢層別感染者数

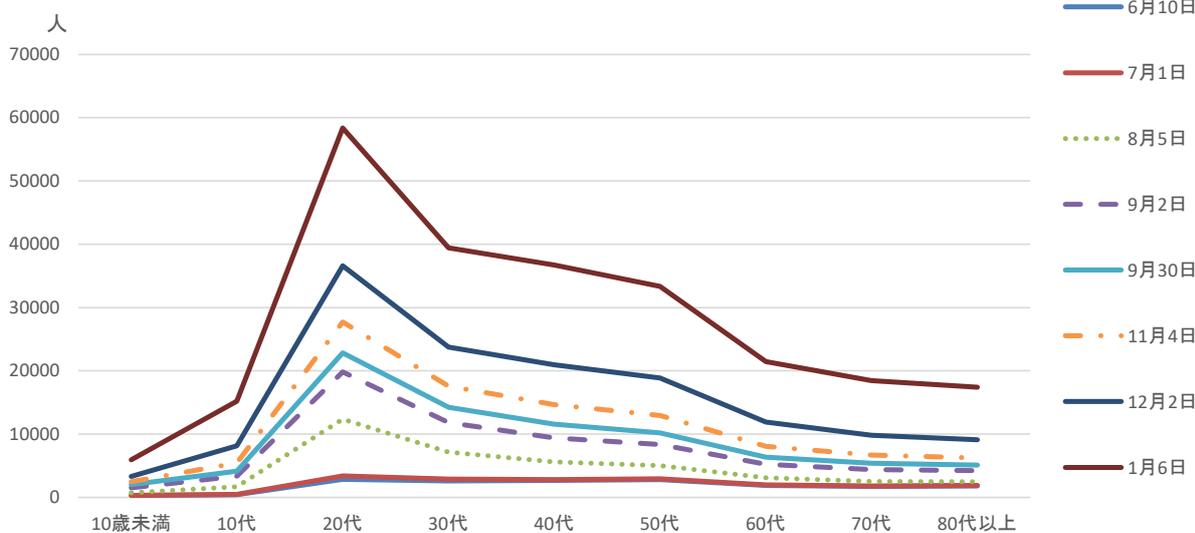


図4.高知県のCOVID-19月別患者数(人)
～2021年1月10日

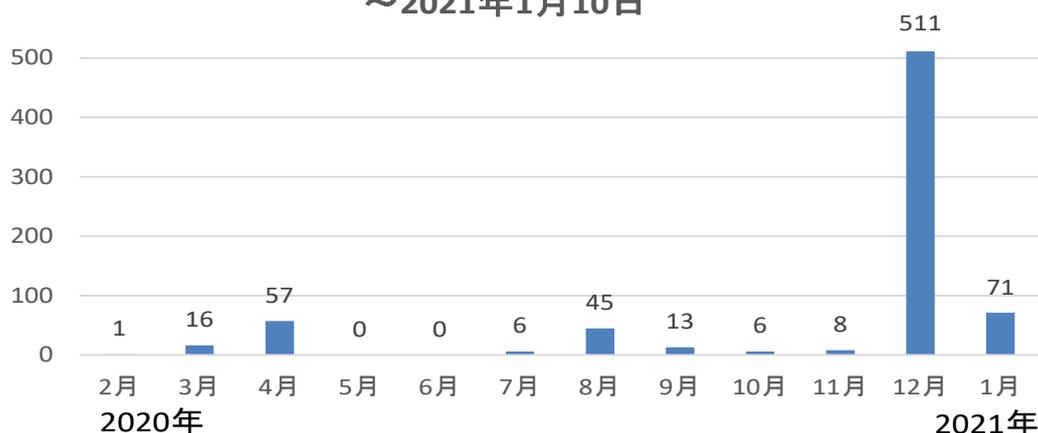
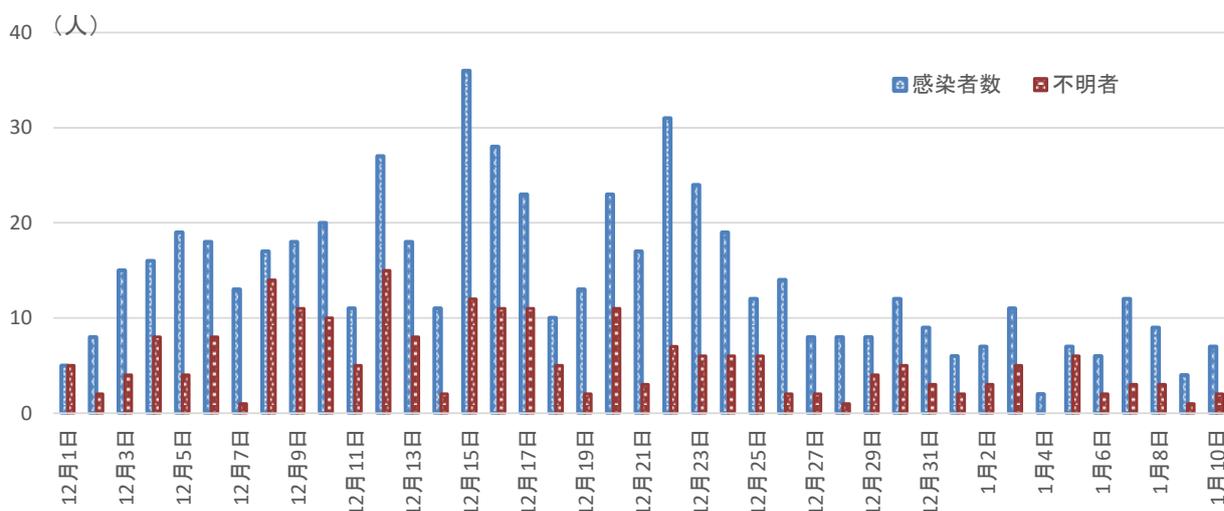


図5.高知県の患者数と感染経路不明者数



2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

2. 主な疾患の発生状況

COVID-19患者の急増のために、発生動向調査目的の新型コロナウイルス以外の病原体検査は、12月から再び中断されている。

1) インフルエンザ

報告数 0名(11月 0名)。昨季は対コロナ自粛の影響もあって小さな流行に終わり終息した。本年9月に1名が報告されたが10月以降に報告はなく、ウイルスも検出されていない。全国で9月18名、10月106名、11月141名、12月に328名が報告され増加したが、散発的発生であり未だ流行には至っていない。COVID-19流行との兼ね合いでインフルエンザの流行動向には例年以上に注目が向けられている。

2) 咽頭結膜熱

報告数 21名(11月 8名)。前月に比べて増加したが12月としては平年並みの報告数だった。高知市、須崎、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 70名(11月 66名)。2020年3月以降は減少し、少ない数字で推移している。同月としては過去10年で2013年に次いで少ない報告数だった。県下全域から報告され、特に高知市、須崎から多く報告された。

4) 感染性胃腸炎

報告数 148名(11月 138名)。2020年2月は平年並みだったが、3月以降は、過去10年で最低、かつ例年の半

分未満の報告数で推移している。県下全域から報告があり、特に高知市、中央東、中央西、幡多から多く報告された。

5) 水痘

報告数 25名(11月 28名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。安芸以外から報告され、須崎と中央西で特に多かった。

6) 手足口病

報告数 132名(11月 150名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であったが、流行規模は平年並みで大きくはない。須崎以外の全域から報告され、高知市、幡多、中央東から特に多く報告された。2020年はCoxsackievirus A16が流行株で、7月から11月に採取された検体から計16件が検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 4名(11月 1名)。2019年7月以降は多い報告数で推移していたが、本年3月以降は減少している。高知市と中央東から報告された。

8) 突発性発疹

報告数 46名(11月 35名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 96名(11月 63名)。例年は初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行した。須崎以外の全域で報告され、高知市、安芸から特に多く報告された。11-12月は過去10年で最多だったが、通年でみると大きな流行ではなかった。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 4名(11月 5名)。12月としては過去10年で最も少なかった。安芸、高知市、幡多から報告があった。

11) RSウイルス感染症

報告数 0名(11月 0名)。2020年は3月以降減少し少数にとどまっている。過去3年続けて流行開始が早く、8月の報告数は2017年以降、270名、126名、233名と多い数字で推移し、従来に比べて流行時期が1カ月程度早まる傾向が続いた。今年はコロナ自粛の効果もあってか流行がない。7月8月とゼロ、9月、10月に1例のみ、11月以降ゼロが続いた。一般に流行開始時期としてとらえられている秋～冬季に報告数がゼロなのは異例のことといえる。ただし鹿児島、沖縄、宮崎、岩手県では流行をみとめる。

12) 流行性角結膜炎

報告数 4名(11月 0名)。例年通りの数である。高知市から報告された。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 2名(11月 0名)。50歳代、70歳以上の2名が報告された。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年6名、2018年5名、2019年2名、2020年は4例であった。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(11月 1名)。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年は2名と報告が少ない。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(11月 3名)。高知市から1名が報告された。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 21名(11月 15名)。平年並の推移である。中央東、高知市、幡多から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（11月 0名）。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例、2018年は1例、2019年は2例の報告があり、2020年は0例であった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和2年12月）

類型	病名	報告月												総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2	結核	5	5	8	3	6	9	3	7	2	8	2	3	61
3	腸管出血性大腸菌感染症									1				1
4	E型肝炎									1				1
	重症熱性血小板減少症候群			1	1	1				1	1		1	6
	つつが虫病											1	2	3
	日本紅斑熱				5	6	3	4	3		2			23
	レジオネラ症	1					1	2	3				1	8
5	ウイルス性肝炎						1		1					2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		2		1			2	1	2		1	10
	急性脳炎		1											1
	クロイツフェルト・ヤコブ病							1				1		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1												1
	後天性免疫不全症候群	2				1			1	1		1		6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症					1								1
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	1	2			1		1		1			11
	水痘（入院例に限る）	1				1		1						3
	梅毒	1		3	3	3			3	5	7	3	7	35
	破傷風		1			1					1			3
	百日咳	9	8	7	4	1	1	1	1		1	2		35
指定感染症	新型コロナウイルス感染症			12	36	26		2						76
	総計	26	16	35	52	48	16	14	23	11	23	10	15	289

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2020年 12月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ									1,623
小児科	咽頭結膜熱		3	15		1	2	21	8	52
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	13	36	3	8	7	70	66	357
	感染性胃腸炎	1	42	60	16	3	26	148	138	304
	水痘		4	6	5	6	4	25	28	33
	手足口病	2	32	62	5		31	132	150	76
	伝染性紅斑			3	1			4	1	106
	突発性発疹	2	7	26	7	2	2	46	35	43
	ヘルパンギーナ	12	10	67	1		6	96	63	3
	流行性耳下腺炎	1		2			1	4	5	7
	RSウイルス感染症									
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4				4		3
STD	性器クラミジア感染症			1			1	2	3	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		2					2		
	淋菌感染症		1					1	1	
基幹	細菌性髄膜炎		1	1				2		
	無菌性髄膜炎								1	
	マイコプラズマ肺炎			1				1	3	15
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								1	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに 限る)									1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		4	16			1	21	15	25
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									1
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		21	119	300	38	20	81	579	518	2,681
前月		24	74	266	20	19	115			
前年同月		72	360	1,175	474	155	445			
小児科定点数		2	7	9	3	2	5			

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

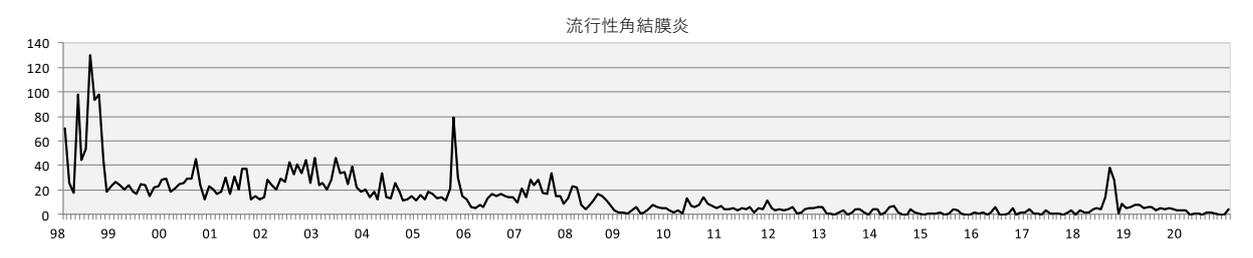
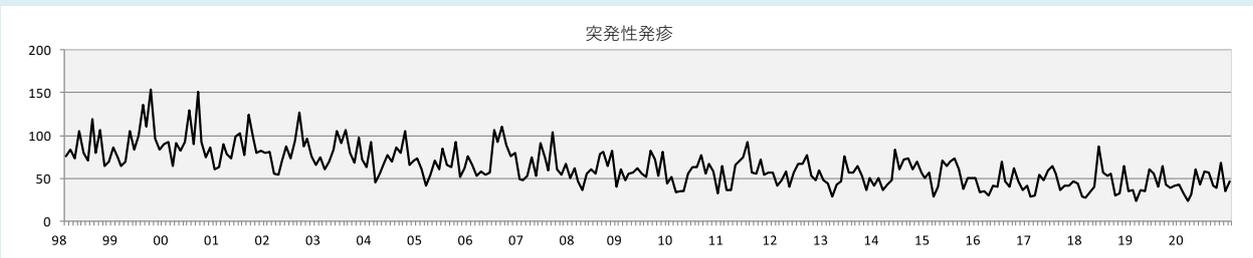
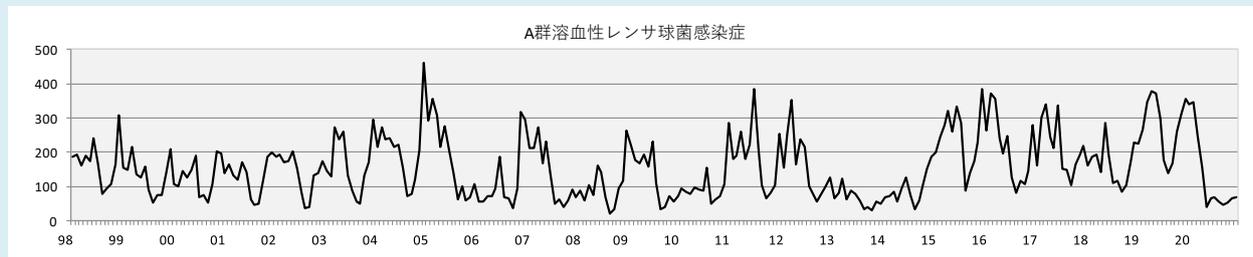
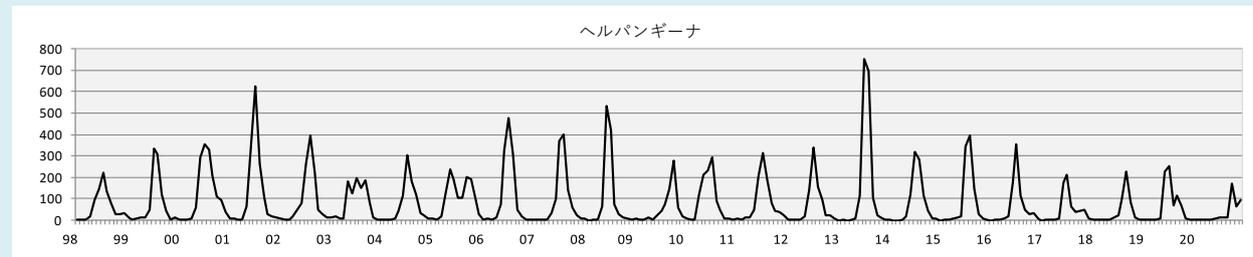
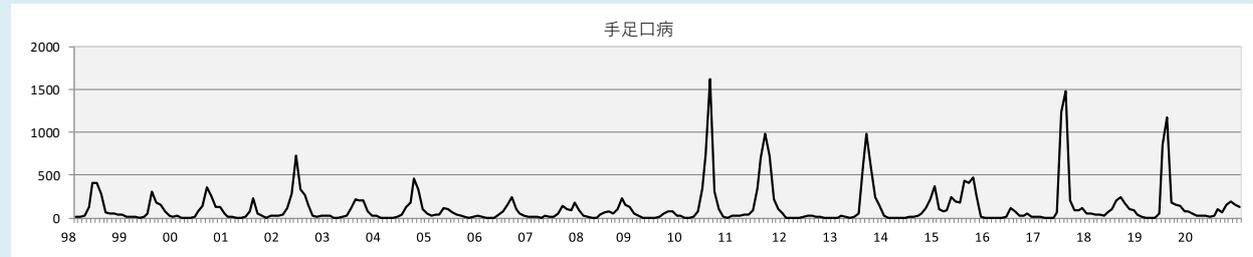
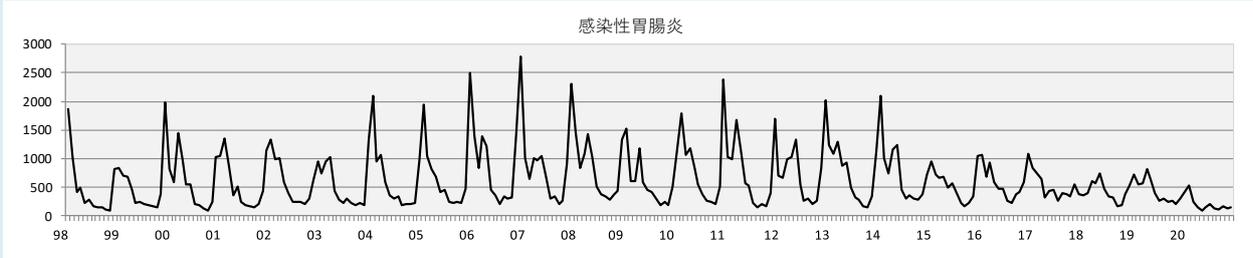
2020年

12月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ									33.81
小児科	咽頭結膜熱		0.42	1.66		0.50	0.40	0.75	0.29	1.73
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	1.87	4.00	1.00	4.00	1.40	2.49	2.36	11.89
	感染性胃腸炎	0.50	6.00	6.67	5.34	1.50	5.20	5.28	4.92	10.13
	水痘		0.56	0.66	1.66	3.00	0.80	0.89	1.01	1.10
	手足口病	1.00	4.57	6.89	1.66		6.20	4.72	5.36	2.53
	伝染性紅斑			0.33	0.33			0.15	0.04	3.53
	突発性発疹	1.00	1.01	2.88	2.32	1.00	0.40	1.64	1.25	1.44
	ヘルパンギーナ	6.00	1.43	7.45	0.33		1.20	3.42	2.24	0.10
	流行性耳下腺炎	0.50		0.22			0.20	0.16	0.18	0.23
	RSウイルス感染症									1.00
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			4.00				1.33		0.99
STD	性器クラミジア感染症			0.50			0.50	0.33	0.50	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		1.00					0.33		
	淋菌感染症		0.50					0.17	0.17	
基幹	細菌性髄膜炎		1.00	0.20				0.26		
	無菌性髄膜炎								0.13	
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.39	1.88
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.13	
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)									0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		4.00	3.20			1.00	2.63	1.88	3.13
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									0.13
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		10.50	15.86	30.76	12.64	10.00	15.80	19.50	17.65	67.49
前月		12.00	9.85	27.45	6.66	9.50	23.00			
前年同月		23.75	38.63	85.35	110.52	56.00	69.05			

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																				総計										
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020								
2	結核	131 149 163 156 192 132 128 138 129 122 110 97 103 61																				1811										
	計	131 149 163 156 192 132 128 138 129 122 110 97 103 61																				1811										
3	コレラ	1																				1	3									
	パラチフス	2																					2									
	細菌性赤痢	11	4	2	3		1	2	2													2										27
	腸チフス		1																				1	4								
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1	207								
計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	243									
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1											3				3	1		2	34			
	Q熱	1	1	2																				1	5							
	オウム病	1			1																					3						
	つつが虫病	9		5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3	4		11	2	3	3	93								
	マラリア								2														4									
	レジオネラ症	2		1	1																					4						
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	195								
	日本脳炎	1	1	1																				1	6							
	レプトスピラ症												1	4	2	1								1	9							
	E型肝炎												1	1												5						
	デング熱												1						3	2	1						2	9				
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	49							
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	493								
5	アメーバ赤痢	2		2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3					7	3	2	5	3	3	47							
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3	3					1			2	1	1	2	60						
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																		7	19	21	22	21	20	10	120						
	急性弛緩性麻痺																					1	2	3								
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4	4		3	3	6				1	3	2				2	1	1	2	34									
	ジアルジア症	1		2	1																				1	8						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1																				1	5									
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1	1	1	1	1	1	2	1	21									
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1	1																				1	27					
	後天性免疫不全症候群	2	2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6	81									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	98								
	侵襲性肺炎球菌感染症																		1	4	12	16	18	14	22	11	98					
	水痘（入院例に限る）																		2	1	1	3	3				10					
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5	1				9						
	髄膜炎菌性髄膜炎																				1	1										
	破傷風	3		2	2	1	1		1	2	3	1	1	1	1	4		3	3	1	2			3	35							
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	231								
百日咳																		173			172	35	380									
麻疹																				5	5											
風しん												1	1	4				9	1	3				19								
計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	110	1218									
指定	新型コロナウイルス感染症																					76	76									
	計																					76	76									
新型	新型インフルエンザ																					34	34									
	計																					34	34									
動物	鳥インフルエンザ																					1	1									
	計																					1	1									
総計		61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	289	3876								